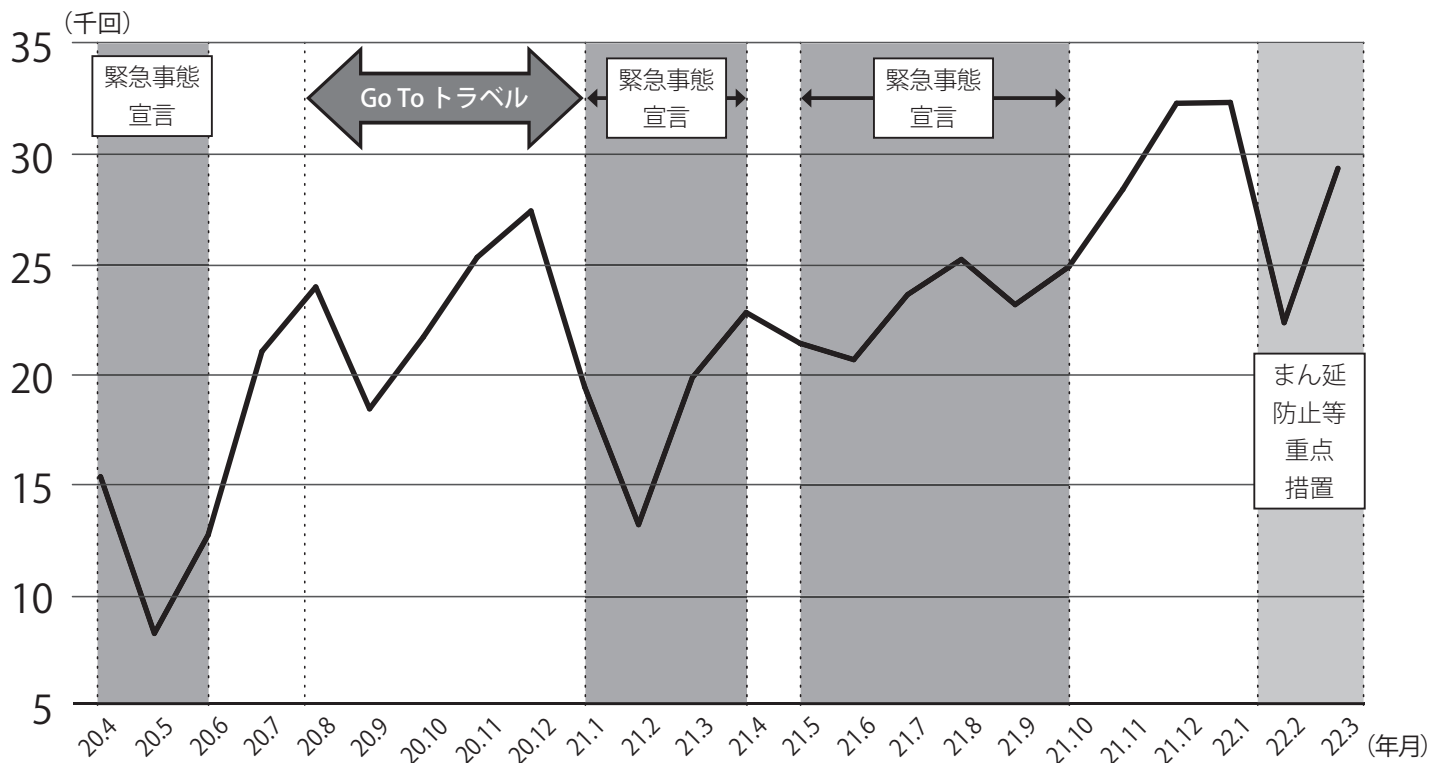


羽田空港の近況についてお知らせします

羽田空港の機能強化(発着容量拡大)のため、2020年3月29日から従来の飛行経路に加え、新たな飛行経路の運用が開始されています。今回のニュースレターでは、羽田空港の運用状況や最新の動向についての情報をお届けします。

羽田空港の運航状況等(今後の需要回復に期待)

●羽田空港の発着回数(2021年度は速報値)

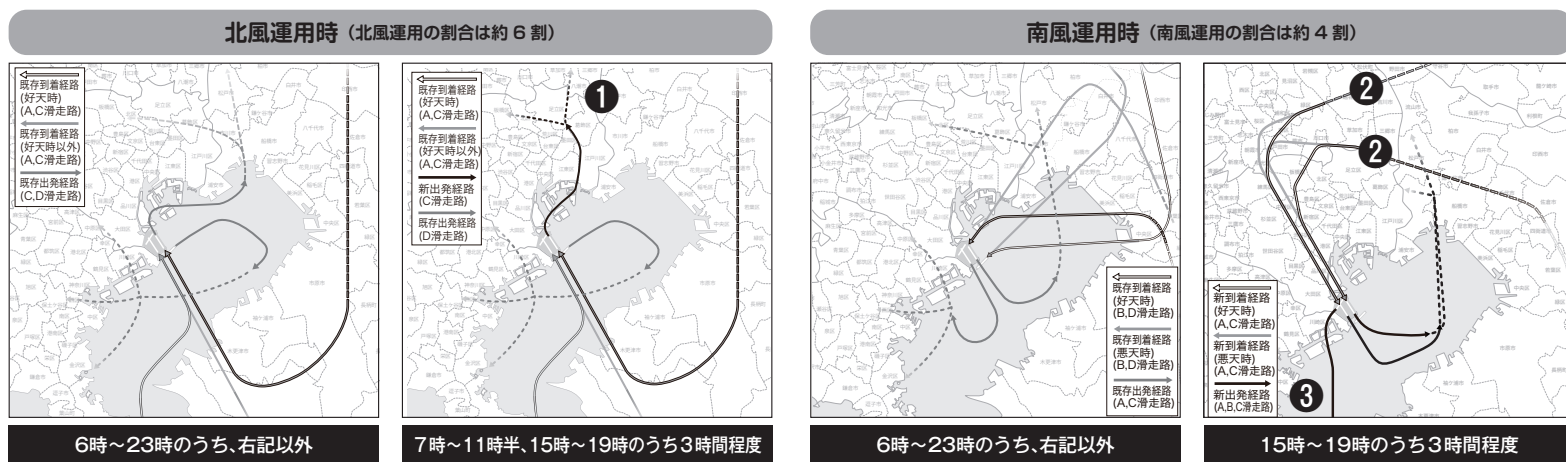


GW期間中の羽田空港

新型コロナウイルス感染拡大により、一時的に発着回数は落ち込みましたが、緊急事態宣言解除後は回復傾向にあり、さらに水際対策や外国観光客受け入れの緩和がなされることから今後の需要回復が期待されます。

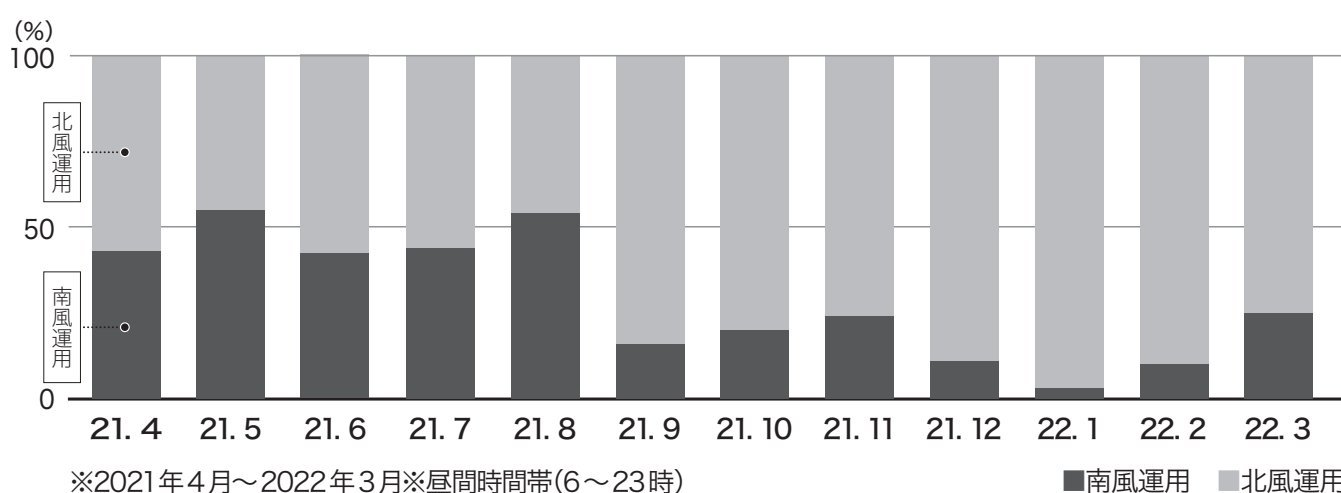
新たな飛行経路が運用されています

●羽田空港の主な飛行経路



羽田空港の飛行経路は北風運用と南風運用に分けられます。北風運用では、①離陸後に荒川を北上する経路(7時～11時半と15時～19時のうち3時間程度)、南風運用では、②埼玉から東京を経由して着陸する経路と③川崎方面へ離陸する経路(15時～19時のうち3時間程度)が、従来の経路に加えて新たに追加されました。

●羽田空港における北風・南風の運用割合



羽田空港における北風・南風の運用は空港周辺だけでなく、首都圏全体の気象状況を元に、航空機が安全に離着陸できるように決定されています。

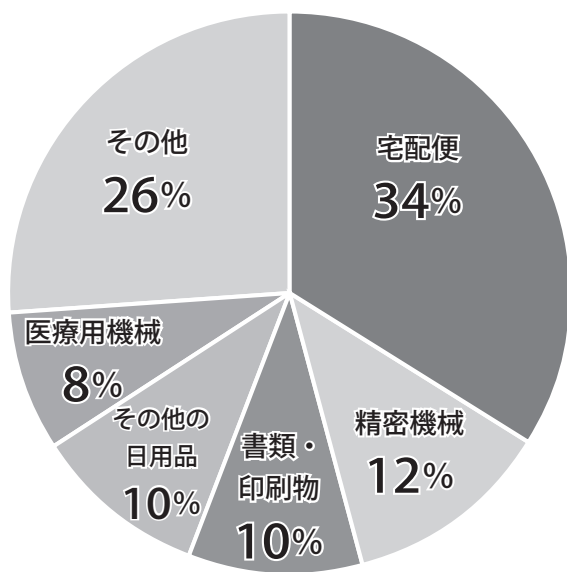
左図の通り、夏は南風運用が多いのに対し、冬は北風運用が多い傾向にあります。

羽田空港の利用状況

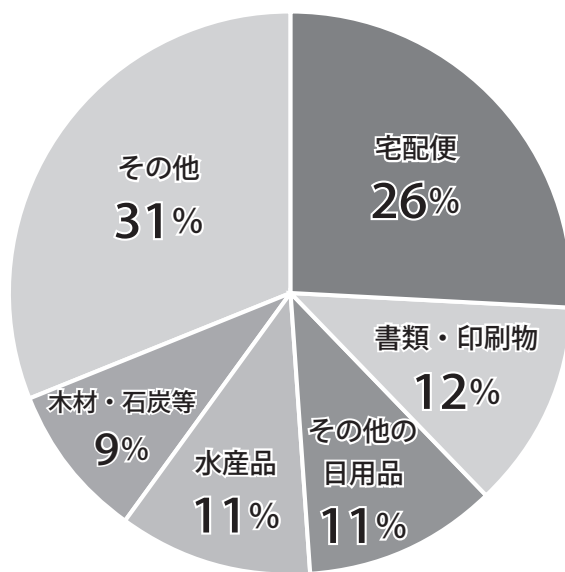
モノをつなぐ、便利な生活を支える羽田空港

コロナ禍において、人々が家にいる時間が増加したことにより、通販やインターネットを通じてモノを購入する機会が増えた方も多いかもかもしれません。人々の移動が抑制されていても、生活を支える物資は世界を駆け巡っています。

品目別発送重量割合
(上位5品目)



品目別到着重量割合
(上位5品目)



航空機から運び出される貨物

羽田空港では、旅客便の貨物スペースを利用して航空貨物が輸送されており、代表的なものとしては精密機器や医薬品、肉や魚などの生鮮食品などさまざまな貨物を運んでいます。

コロナ禍の取り組みとしては、地方で収穫された野菜や魚などを朝一番で地方空港から羽田空港へ運び、首都圏のスーパーで購入できるようにするなど、鮮度を活かした物流ネットワークも構築されているところです。

※「令和2年度航空貨物動態調査」(国土交通省)を基に作成。調査日は2020年11月25日の1日で、羽田空港から発送・羽田空港に到着した品目の上位5品目を集計。発送重量は約724 t、到着重量は375 t。

コロナ禍により旅客便自体が減便している影響で総取扱量は減少している状況ですが、一方で限りある貨物スペースがほぼ満載状態になっています。このように空港はコロナ禍においても『モノの往来』も支え続けています。

世界とつながる羽田空港

2019年10月末時点: 19カ国・地域、32都市

欧州:4カ国:5都市 フランス イギリス ドイツ オーストリア	北米:2カ国:9都市 アメリカ カナダ
	オセアニア:1カ国:1都市 オーストラリア
	中東:2カ国:2都市 カタール アラブ首長国連邦
アジア:10カ国:15都市 韓国 中国 香港 台湾 タイ マレーシア シンガポール インドネシア フィリピン ベトナム	

2022年3月末時点: 24カ国・地域、48都市

欧州:8カ国:9都市 フランス イギリス ドイツ オーストリア イタリア ロシア フィンランド デンマーク	北米:2カ国:16都市 アメリカ カナダ
	オセアニア:1カ国:3都市 オーストラリア
	中東:2カ国:2都市 アラブ首長国連邦 トルコ
アジア:11カ国:18都市 韓国 中国 香港 台湾 タイ マレーシア シンガポール インドネシア フィリピン ベトナム インド	

羽田空港は都心に近く、24時間運用されているという利便性の高さからさまざまな需要に対応し、『ヒト・モノをつなぐ大切な役割』を担っています。コロナ禍により、現在は減便中ですが、国際線は24の国と地域(48都市)、国内線は各地の50空港において運航計画がなされており、このネットワークを活かすことにより『世界と日本をつなぐ大切な役割』も担っています。 ※2022年3月末時点の就航予定都市数

夏休み中の羽田空港

航空会社によると、7月～8月羽田発着の国内線便数は減便しない運航を予定しています。大型連休を除く通常時に減便をゼロにするのは2020年3月以来2年4カ月ぶりです。依然として国際線の運航率は3割未満とのことですが、6月10日から訪日観光客の受け入れが再開されているため、国際線の運航率回復も期待されます。今後、外食や旅行関連などの業界についても徐々に持ち直していくことが予想されます。

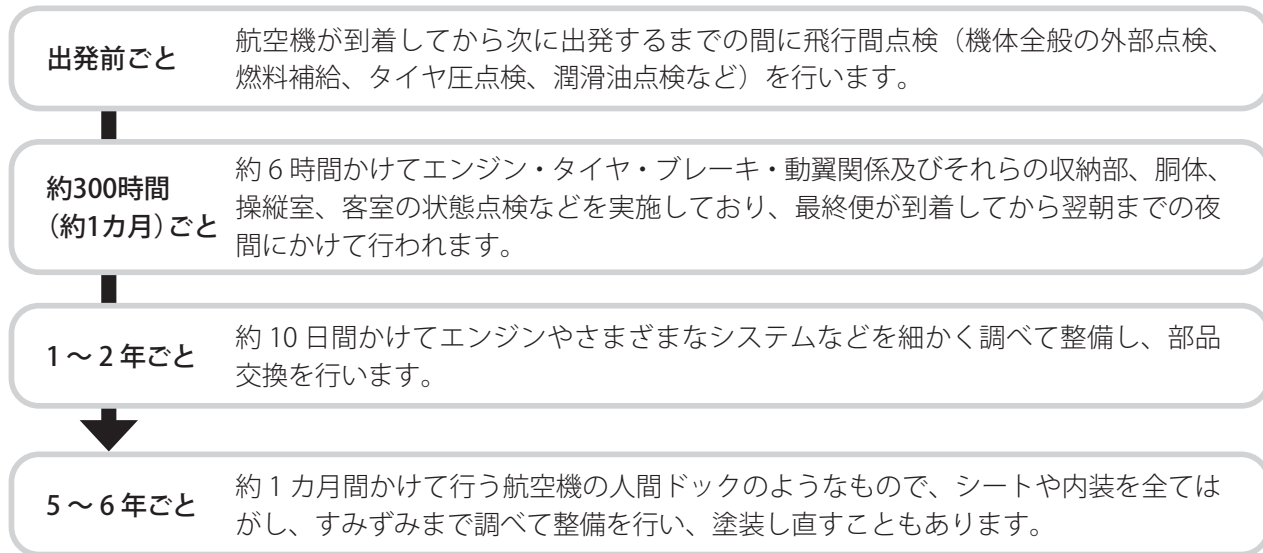


安全な運航のために～航空機を運航するうえでの安全対策～

安全の確保は、すべてに優先します。すべての航空関係者が高い緊張感をもって日々の安全対策にあたっています。今回は航空機の機体点検と落下物防止対策についてご紹介します。

航空機の機体点検

航空機の点検はどのように行われているのでしょうか。航空機は飛行時間ごとに細かく点検・整備を実施しており、常に安全に運航できるように万全の整備体制を整えています。



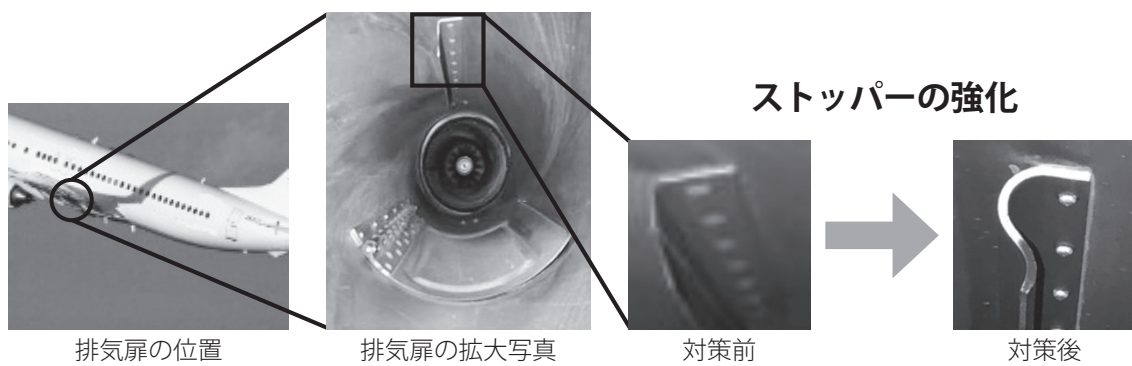
駐機中の機体の点検

落下物防止対策の取り組み

航空機からの落下物については、2018年3月に取りまとめた「落下物対策総合パッケージ」に基づき、関係者(国・メーカー・航空会社等)が一丸となって対策を実施しています。

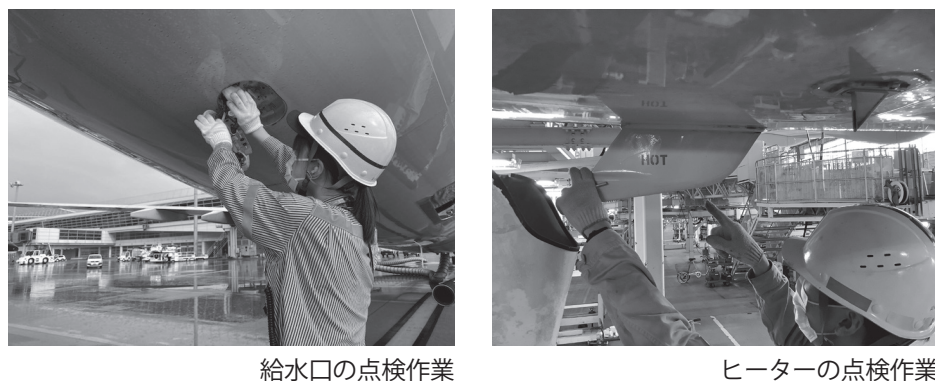


具体的な改善事例



過去に他空港で発生した落下物事案や部品欠落については、航空会社においてメーカー等と連携して原因究明・対策検討を行い、国はその実施状況を指導・監督するとともに、他の航空会社へも情報共有や指示、必要に応じて落下物防止対策基準の拡充を行っており、再発防止を徹底しています。

氷塊落下対策の取り組み



「落下物防止対策基準」に基づいて、氷塊落下対策についても以下のような取り組みを行なっています。

- 航空機に手洗用の水を給水する場合には、給水時にこぼれた水の拭き取りを徹底すること
- 空中で航空機外に排水する排水口への氷塊の付着を防止するため、排水口に備え付けられているヒーターの定期的な点検を実施すること

落下物かな？と思ったら

氷塊や航空機から落下した物体と思われるものを発見した時は、次ページにあるお問い合わせ先(Tel 0570-001-596)までお知らせください。通報を受けた場合、国の職員はご連絡いただいた方へ確認をさせていただくとともに、発見時間に上空を飛行したと思われる航空機の運航者への調査を実施するなどして、航空機由来の落下物かどうかを確認します。

なお、氷を発見した場合はビニール袋に入れておくなど、成分分析ができるよう保存してください。



トピック 新幹線の運休を航空機がバックアップ

2022年3月16日夜に東北地方で発生した地震により、東北新幹線が一部運休となったことを受け、航空会社では羽田空港や成田空港、伊丹空港と東北地方を往復する臨時便を相次いで運航させました。

地震発生翌日の3月17日朝には、羽田と仙台、福島を結ぶ路線が設定されたほか、既設の便の増便や伊丹と仙台等、東北地方を結ぶ便の開設が行われました。航空会社のこうした臨機応変な対応力は、新型コロナウイルス感染症による急激な需要の変化に対応してきた中で培われたものです。臨時便の運航は東北新幹線の全線再開により終了となりました。

こうした動きは過去にもあり、2011年3月に発生した東日本大震災の際にも行われ、災害など緊急時であっても人や物の流れを止めない動きに、航空業界も寄与しています。



トピック 多摩川スカイブリッジ開通

川崎市殿町(キングスカイフロント)と羽田空港(羽田グローバルウイングズ)をつなぐ新しい橋「多摩川スカイブリッジ」が2022年3月12日(土)に開通しました。

多摩川スカイブリッジは、多摩川の河口に最も近く、世界との玄関口である羽田空港へつながる橋であり、国際競争力の強化に向け、羽田空港周辺地域及び京浜臨海部の連携を強化し、多摩川両岸の成長戦略拠点の形成を支えるインフラとなります。

世界への玄関口であり、多彩な施設が建ち並ぶ羽田グローバルウイングズと先端医療関連企業が集まるキングスカイフロントが、ひとつのエリアとなり、国際的なビジネス拠点を形成、競争力のある事業展開が期待されます。



多摩川スカイブリッジと羽田空港から離陸する航空機(川崎市側から撮影)

■航空機騒音・落下物等に関するお問い合わせは

Tel 0570-001-596 受付時間：7:00～20:00 [土・日・祝含む]



現在の空港(滑走路)の運用状況や、過去の航跡図、当時の騒音測定局が観測した騒音値をご覧いただけるホームページを公開しています。

[羽田空港飛行コースホームページ](#)

検索

引き続き、情報提供が行われます



本号でお知らせした内容をはじめとして、上記のホームページにて羽田空港に関する最新情報を掲載していますので、ぜひご活用ください。ご意見ご要望もこちらのホームページからメールフォームで直接投稿できます。

[羽田空港のこれから](#)

検索